

九州産業考古学会報

第10号 2008年3月31日発行 発行元：九州産業考古学会

筑豊の近代化遺産について



長弘雄次（九州共立大学名誉教授 本会会員）

筑豊の近代化遺産の大部分は明治、大正、昭和の百年にわたって日本の近代化をリードした遠賀川流域の、北九州市八幡西区、若松区まで広がった石炭産業に関わる近代化遺産である。

昨年11月6日には、「九州・山口の産業遺産群」の世界遺産登録国内暫定リストに、「旧三井田川鉱業所伊田竪坑櫓、伊田竪坑第一・第二煙突」と「旧伊藤伝右衛門邸」が文化庁に追加提案されたとの報道があった。前者は同年10月2日に国登録文化財となり、後者は4月28日に開館後、県内外から多くの観光客が訪れ、この1年で20万人を越す予想以上の観光名所として定着しつつあるが、これも産業考古学会から「推薦産業遺産」認定を頂

いたお蔭と、あらためて心からお礼申し上げたい。

経済産業省は地域活性化を支援するために、わが国産業の近代化に大きく貢献した「近代化産業遺産群33」を昨年11月30日に公表した。そこでは選定取りまとめの考え方として、建造物はもとより、画期的な製造品及び製造に用いられた設備機器、それを物語る文書など多様な物件が対象とされ、「産炭地域の特性に応じた近代技術の導入など九州・山口の石炭産業発展の歩みを物語る近代化遺産群」として、筑豊地域から伊田竪坑櫓・二本煙突、旧伊藤伝右衛門邸、嘉穂劇場、直方市石炭記念館本館など5市町村の14件が選定された。また筑豊の石炭の輸送・貿易に関連する産業遺産として、北九州市域からは川ひらた、堀川運河、旧古河鉱業若松支店、旧松本家住宅など13件が選定されている。

また、筑豊の田川が発祥といわれる「炭坑節」等の独特の文化に見られるように、石炭産業は経済・生活・文化等あらゆる側面に影響を及ぼす地域の存在基盤となり、その影響は石炭の採掘を終えた今日も引き継がれている、と選定の説明がなされている。

そのような観点から筑豊近代遺産研究会では、石炭の採掘から製品輸送、関連施設、文化遺産の順に、石炭生産、輸送（水運・陸運・海運）、石炭建造物、石炭信仰・モニュメント、石炭無形文化遺産、一般近代化遺産、大学研究機関・歴史民俗資料館の分野について調査をしている。信仰、炭坑節、山本作兵衛炭鉱絵画や文学など、人々の汗の結晶である無形文化遺産にも光を当てて『筑豊の近代化遺産』出版に向けた取りまとめを進めているところである。

【研究発表】

宗像・上八金山の遺物“金控碓”

砂場一明（小会事務局長（4月より））

交通安全の祈願で賑わう宗像大社辺津宮（宗像市田島）境内の一画に、沖ノ島（＝沖津宮）の古代祭祀遺跡から発見された膨大な量の国宝を収蔵・展示している神宝館がある。この神宝館入口階段前の広場に、一見礎石と見紛うものが据えられている。近づいてよく見ると、石の前面に「安政二年卯八月吉日 上八〔こうじょう〕村金山 奉納」の文字が彫り込まれている。この石は「金控碓」〔かねひきうす〕と呼ばれ、江戸時代末期に金鉱石を粉砕するために使われていたもので、上臼・下臼一对の内の下の部分であった。

宗像の地は、藩政時代から金・銅・石炭などの地下資源が各地で採掘されていたという伝記が多く残されており、福岡藩の重要な財源になっていたようだ。特に石炭は「宗像炭田」と総称されて1960年代まで採掘されており、それについては小会編『福岡の近代化遺産』でも簡単に触れられている。

石炭に比べ、貴金属の金山については史料に乏しい。『玄海町誌』によれば、明治中頃に開発された「池田金山」（現・宗像市石原付近）が近代的なボイラー設備を持って操業していたというが中断され（休業年不明）、その数年後この金坑を大分県の成清真愛が再開し、成清金山として太平洋戦争時まで操業していた。鉱石は全て佐賀関精錬所（大分県佐賀関町）へ搬送されていたという。また地元の話によると、昭和36年（1961）の池田炭鉱閉山後も「福崎金山」が操業していたと聞かすが、その場所は確認できない。

金控碓に話を戻すと、嘉永6年（1853）に開坑された上八金山のもので、下臼は高さ40cm、直径60cmで、上が凹面になってお

り、その中央に直径8cmの穴があいている。石質是最硬質で、緻密な安山岩か玄武岩と思われる。



図1 金控臼・下碓

この相方となる上臼については、昭和47年（1973）に福岡市の某家茶室脇で発見されたのが宗像大社に寄贈されたと伝えられているが、下碓の置かれている辺りには見当たらない。上臼は厚さ約10cm、長径60cm、中央に穴が貫通しており四角い形をしていたと記録されている。下臼の傍らに石質の異なる板状の石があるが、金控碓に関わるものか否かは定かでない。



図2 金控碓の印字面と板状の石

使い方は粉碾臼と同じ原理で、下臼の中央の穴に鉄棒を立て、上臼をこれにはめ込み金鉱石を臼の間に入れて、上臼で碎きながら廻して粉碎していく。更に水流式の道具にかけて金を採取していたと考えられる（『玄海町史話伝説』「想像図」参照）。



図3 上八金山作業想像図

上八金山は宗像市北部の鐘崎にあり、万葉集には「金之御崎」とあることからカネ=キンにまつわる地名のようだ。『福岡県地理全誌』の「上八村金山址」の欄には、「村ノ東南二町許ニアリ。昔此山中ニテ、金ヲ掘タリシカ、多カラストテ止ミヌ。今猶鉱穴二十七所アリ。享保二年丁酉三月旧幕府ヨリ巡察使ヲ西国ニ遣サレシ時、此所ニ立寄り、堂ノ尾

ト云所ニテ、是ヲ踏鞴ニカケシト云。金控碓ト云モノ、山中所々ニノコレリ。嘉永六年癸丑二月旧藩ニテ新金坑ヲ開カル。其田字常楽、三本平、大切、以上古金坑 菜種畠、野口、仁田尾、牛ノ尾、井手ノ口、此外ニモアリ。出金ノ多キ事、田野村ニ垂ク。文久二年壬戌二月ヨリ休山セリ。」とある。

幕末に金坑を再開したことや、その場所がここに明示されているが、思うに臼に彫られている安政年間が金採掘の最盛期で、産金祈願をこめて碾臼を神社の手洗鉢として奉納したものではなかろうか。

この金控碓は鉱山道具の一断片ではあるが、当地では鉱石粉碎機先駆けとも言える珍しいものであり、福岡でも金が採掘されていたことを物語るものでもある。なお、上八には、安政元年に創建された、鉱山の守護神大山祇神を祀る山神社の小さな祠と、この登り口の山道脇に「金山中」と彫られた猿田彦神の石碑が残されている。

《参考文献》

『玄海町誌』玄海町、1985
 『玄海町史話伝説』玄海町教育委員会、1995、
 『「宗像」二十年の歩み』宗像大社広報課、1981
 『福岡県宗像郡誌（上巻）』名著出版、1972



【研究発表】

歴史的な鉄道施設の活用事例

青地学（小会事務局長（3月まで））

1. はじめに

東京駅の往年の姿への復帰の試みが報じられ、歴史ある駅への注目が高まっているものと思われる。歴史的な鉄道施設の活用事例を3件紹介する。

2. 新橋の例

新橋駅開業当初の駅舎は現存せず、解体後は汐留貨物駅となっていた。近年の再開発で図1に示す往年の駅舎の様子が再現され、中では周辺で発掘された資料展示や鉄道に関する企画展が開催されていた。飲食店も入居しており賑わいを得ている。

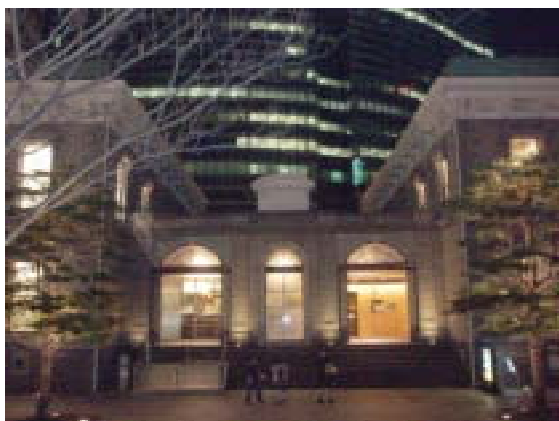


図1 新橋駅舎の再現

図1の裏手では乗降場が再現され、年末の夜を彩る汽車をモチーフとしたイルミネーションが設置されていた。



図2 乗降場の再現

図3に示す新橋の鉄路出発点は後年に再現されたものである。



図3 鉄路の出発点

図4に示す現在線の新橋駅高架下では飲食店が軒を連ねている。重厚な煉瓦造りには風格があり、現在の都心でも生きた存在である。



図4 新橋高架下

3. イギリス リーディング駅の例

図5に示す建物は裏側が乗降場に面しているものの、現在の駅舎としては使用されておらず、1階部分はカフェとして利用されていた。旅客は図右側の入口から構内に入場する。



図5 リーディング駅

図6が簡素な現在の玄関口である。



図6 現在の駅の入口

図7は入口から入ったところで、跨線橋にはエスカレータが設置され、広々とした空間が広がっている。また、飲食店を始めとする商業施設が入居しており、現在の生活に必要な機能が持たされている。古い駅舎や乗降場などの施設はそのままに、必要な新しい機能は別の建屋に持たせるといった方法を強く印象付けるものである。



図7 駅の内部

4. イギリス スウィンドンの例

鉄道の街として栄えたスウィンドンには、当初の役割を終えた関連の施設群が数多く残されている。図8は活用例の1つであるショッピングモールの入口である。



図8 ショッピングモール入口

図9は内部であり、数台のクレーンや工作機械が残されている。所々に建物の由来の説明板があり、トイレには往年の工場の写真をプリントしたタイルが張られている。



図9 ショッピングセンター内部

前述のショッピングセンターの隣は、図10に示すスチームという鉄道資料館である。



図10 スチーム外観（鉄道資料館）

図 11 に示す内部には実物の車両が図中以外にも展示されている。



図 11 スチーム内部

車両展示以外では、車両保守の一部として、図 12 に示す工作機械も展示されている。木工、鋳造、事務といった当時の鉄道業務の様々な場面が再現されている。実際に鉄道の工場だった建物が関連の資料館となっており、前述のショッピングセンターを含めて鉄道の街という地域の理解が得られる。



図 12 工作機械

5. おわりに

既に有名となった駅は観光資源でもあり、未だ無名のものはその可能性を秘めている。歴史的な鉄道施設の固有性は、地域の財産と考えられる。また、駅をはじめとする鉄道施設は人々の生活と共にあり、多くの思い出がつまったものと思われる。これは代替の効か

ないものであり、固有の価値を一層際立たせる。

周辺環境の変化や技術の進歩で別途新たな機能が必要となり継続利用が困難な場合は、別途新しい建屋を用意して歴史的な建物との共存を図る例も見られた。

歴史的な鉄道施設が現在の生活の中で生かされている例を紹介した。



【産業遺産短信】

九州内の産業遺産に関連する情報を編集部から報告する。このコーナーでは、会員からの積極的な情報提供を歓迎している。

経済産業省による近代化産業遺産認定

2007年4月、経済産業省が産業遺産活用委員会を設置し、「近代化産業遺産」を対象としてこれらを地域の観光資源として活用すべく地域史、産業史を軸としたストーリーを設定、11月30日に33件のストーリーをとりまとめ、「近代化産業遺産群33」として公表を行った。この内容には九州の産業遺産も数多く紹介されており、今後の活用が期待される。



写真 近代化産業遺産33

(参考 URL : <http://www.meti.go.jp/>)

長崎刑務所一部保存へ

前号で紹介した長崎刑務所であるが、市や所有者との協議が進められており、その中で管理棟の一部と正門、および壁の一部を保存する方向で協議が進められている。

しかし、それ以外の部分については、既に解

体撤去されており、現在広大な敷地内のほとんどは荒地となっており、往時の煉瓦施設群を偲ぶものは少ない。

「折尾駅と堀川運河を保存する会」報告
 前号で紹介した折尾駅の歴史的価値を考へる会は、折尾駅の保存を強く訴えかけるため、いくつかの団体を構成団体に加え、「折尾駅と堀川運河を保存する会」へと改組した。その後活動を前面に押し出すため、署名活動を引き続き行くとともに1月26日、2月23日、3月16日の各日程でシンポジウムを行い、遺産の価値とこれからのまちづくりに関する議論を行った。

今後JRによる折尾駅周辺連続立体交差事業およびそれと同時に行われている区画整理事業に伴い、折尾駅舎の解体が来年末に迫る中、小会もこの会に協力する形で駅舎の保存運動に取り組んでいる。



図 第5回シンポジウムチラシ

【報告】

『福岡の近代化遺産』出版を終えて

市原猛志（九州大学大学院）

『福岡の近代化遺産』（以下、『福岡』）は、2008年1月25日に小会最初の一般書籍として弦書房より発行された。売れ行きは概ね順調なようで、東京では神田の書泉グランデはじめ、三省堂書店（書肆アクセス閉店後、後を受け継ぐコーナーを4Fに開設）、ジュンク堂、紀伊國屋書店など、数多くの大手書店で販売されている。熊本でも長崎書店で購入できるなど、九州各地でかなり広範囲に販売されているようである。もちろん、お膝元の福岡では、天神や博多の各書店に順次入荷されている。

出版企画とスケジュール

これから同種の企画が行われる際の参考になることを願って、編集と出版を終えての感想を述べてみたい。『福岡』の企画は、2006年に刊行された『北九州の近代化遺産』（以下『北九州』）が刊行される前に既に構想として存在していた。これには、シリーズ物で企画しておいた方が書店での販売がやりやすくなる、という販売上の都合もあったが、小会内で何度となく浮かんで消えていった「書籍刊行」のまたとない機会に賛同したこともある。

ポイントと問題点

『北九州』と比較してかなり短期間に出版できたことには、或る程度の執筆陣が確保できたこと、それに出版の手順が以前より把握できたことが要因としてあげられる。執筆陣による最初の会合は3月末に行われたが、一次リストの大枠作成及び写真収集は昨年11月頃から既に逐次行われており、特に一次リストの概要が出来ており、その中で執筆遺産候補が定まっていたことが、最初の会合において、誰が書くか、何を採り上げる

か、いつまでに仕上げるか、といった三項目の当初課題のうち二つ(予定、という意味では三件とも)を概ねクリアできたことの原因としてあげられる。最初の会合において話し合うべき事は、今いる人たちの中で採り上げたい物件を挙げること、採り上げたい物件を執筆できる人を紹介して貰うこと、そして、現段階の一次リストの中で採り上げられていない物件(重要性の有無はこの場合関係しない)を各自が知っている中で挙げることで、の三件となり、今後の方針がとりやすかった。この出だしの統一感が全体の出版スピードを上げる要因になった。

よい面もあれば、問題点も当然生じる。まず挙げられることは、事務作業に関する負担が強いことである。編集事務の作業は一次リスト作成と執筆者との調整、文章の確認・校正だけではない。ページ数調整のために項目を増やす(緊急取材含む)、遺産マップの作成、レイアウト調整、執筆者からの要望・意見に対する回答など、枚挙にいとまがない。当然他の作業が滞る。特に昨年は全国大会はじめ種々のイベントが重なっていたため、一人にかかる負担は相当なものとなった。事務作業をはじめとする経費も当然かさむ。現在第三弾企画として『筑豊の近代化遺産』が田川市石炭・歴史博物館を編集事務局として作業を進めているようであるが、確かにこのような事務作業は自治体を事務局とした方がいろいろと都合のよい事が多いだろう。

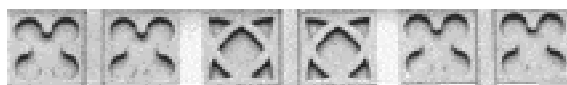
更に文章に関するトラブルが多かったことも『福岡』の特徴である。これは執筆期間が短かったことと、執筆者会合が少なく執筆に際しての意思統一が完全でなかったことが原因としてあげられるが、引用に不可解な点がある原稿や、既に存在しないものや復元されたものを取材した原稿が出てしまい、この間の意見調整に時間が生じてしまった。また校正に際し、言い回しの修正のみならず筆者が意図しない加筆や大幅な削除が行われたこと

で筆者から抗議を受けたことは、これからの出版企画に際し注意が必要なところであろう。これは編集方針が『北九州』と異なることもあったが、私個人としては編集の手間を考えると必ずしも良い方針とは言えないところがある。とりわけ加筆に関しては、筆者に事実確認の二度手間を生じさせることにも繋がるため、今後の企画にはお薦めできない。

最後に

昨今近代化遺産ブームとも言うべき出版ラッシュが続いている。2007年3月には『但馬の近代化遺産ガイドブック』が兵庫県但馬県民局より刊行(無料配布)され、同12月には京都市による近代化遺産調査報告書を一般書籍化した『京都の近代化遺産』が淡交社より刊行された。

こうした状況は今まで研究してきた成果を堂々と発表(刊行)できる好機と言える。今後刊行される近代化遺産シリーズ(細かな地域ごとに近代の建造物を採り上げたシリーズ物としては、北海道新聞社が発行した『~の近代建築』(全6冊)の他、例がない)に際しては、読者と研究者が望む執筆体勢を踏まえた上で、いかに地域の資源を掘り起こしていくか(中央が発信する「遺産発見」ではなく)、それぞれの遺産の背景にどのような物語を見つけていくことが出来るかが、今後も愛される書籍となる条件になるのではないかと私見を述べた上で文章を結びたい。



【報告】

産業考古学会全国大会(北九州)感想

産業考古学会全国大会(北九州)は、2007年11月10日に見学会、翌11日に見学会を行った。開催に当たっては小会会員が実行委員会として準備に携わり、100名を超える

参加者を迎え盛況に終わることができた。詳しい内容は既に産業考古学会などでも既に紹介されているため、ここでは、参加者の声を掲載することで全国大会の内容紹介に替えさせていただきます。

・ご要望の声

* いわゆる「重厚長大産業」の起源に偏らず、民衆の生活を支え、民衆の中では存続してきた諸産業にも目を配っていただければ幸いです。またいわゆる無形遺産、特に“職人わざ”と呼ばれる属人的技能が消えつつあります。せめて記録映像の形で残していただきたいと思います。(お金と手間がかかりますが) 日本の産業は職人的スキルに支えられてきたことを忘れないでいただきたい。(東京都杉並区 匿名)

* 遺産の評価・研究だけでなく、活用や教育などの方法論やあり方という面についても、今後とも副次的でなく大きな柱として扱って欲しいと思います。保存などを社会に訴える上で、価値だけでなく、実際の残し方までで提案していかないと一般的な承認は得る事ができないと思うからです。(匿名)

* 何のために保存するのか、産業考古学会として大きな課題だとつくづく感じました。取りかえしのつかない遺産も多くあると思いますが、失なわれる前に大切に気づくことの難かしさを強く感じます。(福岡市東区 匿名)

九州産業遺産の観光バスツアー等を増やしてほしい。10月下旬、イノベーションギャラリー主催の北九州産業遺産バスハイクに行っており、とても楽しく面白かった。

* G.W.夏休み時期や秋など季節ごとに、組めばいいと思う。知的好奇心を触発される旅になると思う。(北九州市八幡西区 松田泰子様)

* 口頭発表だけでなく、ポスター発表もされたいかたがたでしょう。発表者のための各種の情報をもう少し詳しくしていただければ。

(形式の統一など) 進行の意図、司会進行の方法などフロアにも理解しやすく又、フロアからの発言を向ける時間が少ないようです。(熊本県人吉市 松本晋一様)

* シンポジウムはパネリスト一人一人は、よく準備され発言されたが全体として、やや趣旨がぼけた感じを受けた。とはいえ全体としては、その用意にふさわしい充実した大会で大いに満足している。(福岡県古賀市 匿名)

・お褒めの言葉

* 周到なご準備の他、単なる研究発表以上の基本問題などにわたる題目について(記念講演やシンポジウムをも含めて)考えておられること敬意を払います。(東京都武蔵野市 匿名)

* 今大会で発表の機会を与えていただき、感謝しています。有意義なご指摘があり、大変、勉強になりました。シンポジウムも、興味深く、拝聴しました。ありがとうございました。(福岡県小郡市 匿名)

* プレツアールで最初に折尾に連れて行ってもらったことが非常によかった。一気に北九州の文化の渦中にひきこまれた。(匿名)

* 十分な準備によってプレ見学会も満足度の高いものでした。ご主催の方々に深く感謝いたします。個人的に産業考古学全く初心者です。しかし、この学会に参加させていただき、益々本学問に興味を深くしました。この会で九州産業考古学会の方々にお目にかかれて大変うれしく思っております。ありがとうございました。(岡山県総社市 小西伸彦様)

* 九州各県がそろって近代化産業遺産に取り組んでいること、NPO法人の活動など素晴らしいと思いました。おいしいコーヒーが自由にいただけるなど、細い心配りに感謝いたします。(愛媛県西条市 西原智珂子様)

午前中発表の時間が短いので今後は今少し長くしてください。(福岡県飯塚市 西田大輔様)

【報告】

2008 年度総会・見学会報告

青地学（小会事務局長（3月まで））

1、はじめに

小会の総会および見学会が去る平成 20 年 3 月 8 日（土）に開催された。近年は総会開催の遅れが目立つようになったため、今回は日程を前倒しての実施となった。

2、見学会

総会に先立ち、NPO 法人「大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ」との共催で「みやま市高田町の宝もの探し」と題した見学会が開催された。三池炭鉱の有明坑立坑櫓が見学できることに加え、暖かな絶好のウォーキング日和とあって、参加者は一般と会員を合わせると 50 名を超える盛況となった。

まず、有明海干拓の歴史を示す柳河藩時代の黒崎堤防と、図 1 に示す明治期の矩手水門を訪れ、柳川古文書館学芸員の田淵氏より説明を頂いた。



図1 矩手水門

その後、図 2 に示す三池炭鉱の有明坑跡を訪れ、大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブの中野理事長より説明を受けた。敷地内の解体作業は進み、2 つの櫓の他に工場の建

屋が数棟と守衛所を残したさっぱりとしたものとなっていた。人員の昇降が行われた坑口は既に塞がれており、巻き上げ機といった付帯設備は既に撤去されている。そびえ立つ 2 つの櫓は有明坑の往年の隆盛を思わせる堂々たるものである。他に現存する万田坑や宮原坑の櫓よりも完成年はかなり下って戦後とのことだが、技術の進歩で形状も洗練されていくことが伺える。

その後、総会の会場となる「まいピア高田」へと移動した。



図2 有明坑立坑櫓

3、事例紹介

総会にあわせて 3 件の事例紹介があり、最初に北海道産業考古学会会長の山田大隆氏より「有明坑櫓の技術史的価値」をテーマに発表を頂いた。図 3 がその模様である。北海道やドイツに現存する櫓や、産業遺産の保存活動の紹介を交えながら、見学した有明坑櫓の技術史的価値が紹介された。Z 字の形をした第二立坑櫓は炭鉱の技術が進んだ後のものであり、これよりも古くて形が異なる第一立坑櫓とあわせ、隣接して現存する例は珍しく、価値あるものとの評価がなされた。

次いで、小会事務局で会報の編集を担当する市原会員より、「福岡の近代化遺産」の出版までの流れについて解説され、編集作業とスケジュール管理の難しさと解決法が紹介された。

事例紹介の最後は、「鉱山で用いられた設備および機器の展示と活用事例について」のテーマで、各地にある鉱山に関する展示が比較され、櫓の移設保存活用例やイギリスやドイツでの機器の動態保存例が青地会員より紹介された。



図3 事例紹介

4、会計報告・役員人事

収入は76,818円の繰越金と会費をあわせて128,818円だが、支出は会報発送回数の低減によって15,194円にとどまり、収支算は113,624円となった。

役員人事は以下となった。

会長：池森 寛

副会長：大石道義

事務局長：砂場一明

事務局 企画：尾崎徹也

編集：市原猛志

監査：清水憲一

西日本工業大学の池森先生が新会長に就任し、木元現会長は顧問となった。事務局長は、今後転勤の可能性がある青地会員から砂場会員に交代した。

5、おわりに

最後になりましたが、総会および見学会の開催にあたり多大なご協力を頂いた、NPO法人「大牟田・荒炭炭鉱のまちファンクラブ」の中野理事長、藤木副理事長、中川原理事、緒方監事、永吉理事、スタッフの方々、小会会員で大牟田在住の古賀会員に厚くお礼申し上げます。



【記念企画】

九州産業考古学会会報 1 ~ 10号総索引

『九州産業考古学会会報』は、2003年の創刊号発刊よりまもなく5周年を迎え、また、同時に第10号の節目を迎えた。第10号発刊記念企画として、これまでの会の活動を振り返る意味で総索引を作成した。九州各地の活動を知る上で参考にいただければ、幸いである。

各号別索引

創刊号 2003年6月26日発行

【巻頭言】

創刊に寄せて 木元富夫 1

【報告】

九州産業考古学会 2003年度総会 松田寛 2

熊本産業遺産研究会がスタート 幸田亮一 3

志免産業遺産講演会 大石道義 3

【特集】

九州産業考古学会の沿革 木元富夫 4

【お知らせ】

役員紹介 4

今後の予定 4

第2号 2004年3月24日発行

【巻頭言】

産業考古学と景観工学 松田寛 1

【研究・小論】		
遠賀堀川とその再生保存について.....長弘雄次	2	
筑豊ボタ山考	深町純亮 4	
【報告】		
志免竪坑櫓とまちづくりシンポジウム		
.....大石道義	6	
関門産業遺産見学会		
下関要塞跡と関門に残る近代化遺産砂場一明 6	
【お知らせ】		
エンジンの産業考古学を体験してみませんか！エンジンフェスティバル in 甘木 2004		7
総会開催のお知らせ.....	8	
原稿募集のお知らせ.....	8	
今後の予定	8	
第3号 2004年9月28日発行		
【巻頭言】		
産業と「環境・文化・教育・平和」との連環 — 産業再考 —	大石道義 1	
【15周年記念寄稿】		
九州産業考古学会創立15周年に寄せて	越智廣志 2	
学会の発展に向けて	木元富夫 3	
【研究発表】		
熱赤外線映像装置を用いた近代化遺産の非破壊検査手法の開発	後藤恵之輔・中別府二郎・吉岡良平 4	
朝倉町の揚水水車について.....	池森寛 8	
【報告】		
年次総会・見学会及び決算報告	松田寛・山田元樹 11	
再建になった嘉穂劇場.....	深町純亮 12	
熊本学園大学産業資料館オープンの経緯	幸田亮一 14	
全国近代化遺産活用連絡協議会大牟田総会	平島勇夫 15	
【企画】		
旧国鉄本社ビル～今はなき「鉄道の総本山」～	青地学 15	
【お知らせ】		
堀川開削200周年記念事業・堀川サミット2004	16	
八女市政50周年記念事業・八女からの「環境・文化・教育・産業・平和」リレーシンポジウム	17	
「鮎川義介のルーツをさぐる」日産自動車・日立金属九州工場見学会	18	
原稿募集（附投稿規定）	18	
今後の予定	20	

第4号 2005年3月31日発行	
【巻頭言】	
産業考古学への道	清水憲一 1
【研究発表】	
岡田医院の歴史と特徴	市原猛志 2
【失われた産業遺産】	
雁ノ巣飛行場跡の格納庫群	砂場一明 5
【報告】	
日産見学会 日産のルーツをたどる ...	松田寛 6

長崎産業遺産見学会	後藤恵之輔 6
学生のための技術史講演会	池森寛 7
【お知らせ】	
日本産業技術史学会総会志免にて開催.....	8
TICCIH 中間大会並びに国際産業観光フォーラム in 名古屋のご案内	9
総会予告	10
【追悼】	
桑原三郎先生を偲ぶ	木元富夫 11
今後の予定	12

第5号 2005年10月31日発行	
【巻頭言】	
九州で産業考古学を学ぶ 事務局長就任挨拶	青地学 1
【研究発表】	
動態保存されている農用小型木炭ガス機関 小林式サクシオンガス機関	池森寛 2
【報告】	
2005年度総会および見学会.....	松田寛 6
折尾界隈の鉄道史を見る	砂場一明 7
日本産業技術史学会総会報告.....	市原猛志 8
九州の伝承遺産シンポジウム 2005 長崎	幸田亮一 9
いぶき館～宝珠山の炭坑遺産～.....	青地学 10
【お知らせ】	
「志免の文化財ウォーク」開催	11
新役員について	11
今後の予定	12

第6号 2006年5月31日発行	
【巻頭言】	
日炭高松二坑旧山神社の鳥居保存活動に思う	瓜生浩義 1
【報告】	
九州伝承遺産ネットワーク協議会 その理念と方向	坂本道徳 2
九州伝承遺産ネットワークの発足を祝して	幸田亮一 3
NPO法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ活動紹介	永吉守 3
旧伊藤邸、飯塚市が買上げ保存へ.....	深町純亮 4
高蔵山堡壘探訪記	砂場一明 5
【お知らせ】	
書籍・文献紹介	6
年次総会開催について	6
【追悼】	
水車を未来に繋ぐ産業考古学を創った人・香月徳男先生逝く	池森寛 7
今後の予定	8

第7号 2006年10月10日発行	
【巻頭言】	
地域住民のための近代化遺産	平島勇夫 1
【報告】	
2006年度総会・見学会.....	青地学 2
「鷗外の道」直方見学会	市原猛志 4
【短信】	
産業考古学について考える	尾崎徹也 4
にあんちゃんの里	砂場一明 5

【お知らせ】
 第6回全国産業観光フォーラム in 北九州..... 6
 門司港まちづくりシンポジウム 7
 志免・文化財ウォーク 7
 門司赤煉瓦研究会講座 7
 今後の予定 8

第8号 2007年3月31日発行
 【巻頭言】
 旧伊藤伝右工門邸の現状と今後 1
 深町純亮

【短信】
 針尾送信所無線塔を実見して.....木元富夫 2
 【お知らせ】
 書籍紹介 3
 2007年度産業考古学会全国大会北九州開催について 3
 会報原稿募集について 4
 今後の予定 4

第9号 2007年11月10日発行
 【巻頭言】
 熊本産業遺産研究会の活動紹介...幸田亮一 1

【短信】
 門司赤煉瓦プレイス(旧サッポロビール九州工場)
 国登録文化財へ竹中康二 2
 2007長崎居住地まつり「居住地シンポジウム」
 に参加して西村博道 3

【遺産短信】
 ・志免壱坑櫓国有形文化財に登録 4
 ・長崎刑務所保存問題顛末記 4

【報告】
 2007年度総会および見学会.....砂場一明 5
 【お知らせ】
 『福岡の近代化遺産』まもなく刊行 6
 シンポジウム「肥薩線100年の歴史と産業遺産
 を語る」 6
 皆様の声を募集！ 6
 「折尾駅の歴史的価値を考える会」による折尾駅
 舎保存署名活動について..... 福山ミツエ 7
 今後の予定 8

第10号 2008年3月31日発行
 【巻頭言】
 筑豊の近代化遺産について.....長弘雄次 1

【研究発表】
 宗像・上八金山の遺物“金控碓”...砂場一明 2
 歴史的な鉄道施設の活用事例..... 青地学 3

【遺産短信】
 ・経済産業省による近代化産業遺産認定
 ・長崎刑務所一部保存へ
 ・「折尾駅と堀川運河を保存する会」報告
 6

【報告】
 2008年度総会・見学会報告..... 青地学 7
 『福岡の近代化遺産』出版を終えて
市原猛志 8
 産業考古学会全国大会感想紹介 9

【企画】
 九州産業考古学会会報1～10号総索引

..... 11
 【お知らせ】
 今後の予定 16

分野別索引

【巻頭言】
 創刊に寄せて木元富夫 1 - 1
 産業考古学と景観工学松田寛 2 - 1
 産業と「環境・文化・教育・平和」との連環
 産業再考―大石道義 3 - 1
 産業考古学への道清水憲一 4 - 1
 九州で産業考古学を学ぶ 事務局長就任挨拶
青地学 5 - 1
 日炭高松二坑旧山神社の鳥居保存活動に思う
瓜生浩義 6 - 1
 地域住民のための近代化遺産.....平島勇夫 7 - 1
 旧伊藤伝右工門邸の現状と今後 8 - 1
 熊本産業遺産研究会の活動紹介 9 - 1
 幸田亮一
 筑豊の近代化遺産について.....長弘雄次 10 - 1

【研究発表】
 遠賀堀川とその再生保存について
長弘雄次 2 - 2
 筑豊ボタ山考深町純亮 2 - 4
 熱赤外線映像装置を用いた近代化遺産の非破壊検
 査手法の開発
 ...後藤恵之輔・中別府二郎・吉岡良平 3 - 4
 朝倉町の揚水水車について.....池森寛 3 - 8
 岡田医院の歴史と特徴.....市原猛志 4 - 2
 動態保存されている農用小型木炭ガス機関 小林
 式サクシオンガス機関 池森寛 5 - 2
 宗像・上八金山の遺物“金控碓”
砂場一明 10 - 2
 歴史的な鉄道施設の活用事例.....青地学 10 - 3

【報告】
 九州産業考古学会2003年度総会...松田寛 1 - 2
 熊本産業遺産研究会がスタート...幸田亮一 1 - 3
 志免産業遺産講演会.....大石道義 1 - 3
 志免壱坑櫓とまちづくりシンポジウム
大石道義 2 - 6
 関門産業遺産見学会 下関要塞跡と関門に残る近
 近代化遺産砂場一明 2 - 6
 年次総会・見学会及び決算報告
松田寛・山田元樹 3 - 11
 再建になった嘉穂劇場深町純亮 3 - 12
 熊本学園大学産業資料館オープンの経緯
幸田亮一 3 - 14
 全国近代化遺産活用連絡協議会大牟田総会
平島勇夫 3 - 15
 日産見学会 日産のルーツをたどる
松田寛 4 - 6
 長崎産業遺産見学会後藤恵之輔 4 - 6
 学生のための技術史講演会 ...池森寛 4 - 7
 2005年度総会および見学会...松田寛 5 - 6
 折尾界隈の鉄道史を見る.....砂場一明 5 - 7
 日本産業技術史学会総会報告...市原猛志 5 - 8
 九州の伝承遺産シンポジウム2005長崎

.....幸田亮一	5 - 9
いぶき館～宝珠山の炭坑遺産～...青地学	5 - 10
九州伝承遺産ネットワーク協議会 その理念と方向坂本道徳 6 - 2
九州伝承遺産ネットワークの発足を祝して幸田亮一 6 - 3
NPO法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ活動紹介永吉守 6 - 3
旧伊藤邸、飯塚市が買上げ保存へ深町純亮 6 - 4
高蔵山堡壘探訪記砂場一明 6 - 5
2006年度総会・見学会青地学 7 - 2
「鷗外の道」直方見学会市原猛志 7 - 4
門司赤煉瓦ブレイス(旧サッポロビール九州工場)竹中康二 9 - 2
国登録文化財へ竹中康二 9 - 2
2007長崎居留地まつり「居留地シンポジウム」に参加して西村博道 9 - 3
2007年度総会および見学会砂場一明 9 - 5
2008年度総会・見学会報告... 青地学	10 - 7
『福岡の近代化遺産』出版を終えて市原猛志 10 - 8
【特集・企画・寄稿・短信】	
九州産業考古学会の沿革木元富夫 1 - 4
九州産業考古学会創立15周年に寄せて越智廣志 3 - 2
学会の発展に向けて木元富夫 3 - 3
旧国鉄本社ビル～今はなき「鉄道の総本山」～青地学 3 - 15
雁ノ巣飛行場跡の格納庫群砂場一明 4 - 5
桑原三郎先生を偲ぶ木元富夫 4 - 11
水車を未来に繋ぐ産業考古学を創った人・香月徳男先生逝く池森寛 6 - 7
産業考古学について考える尾崎徹也 7 - 4
にあんちゃんの里砂場一明 7 - 5
針尾送信所無線塔を実見して木元富夫 8 - 2
志免竪坑櫓国有形文化財に登録市原猛志 9 - 4
長崎刑務所保存問題顛末記市原猛志 9 - 4
経済産業省による近代化産業遺産認定市原猛志 9 - 4
長崎刑務所一部保存へ市原猛志 9 - 4
「折尾駅と堀川運河を保存する会」報告市原猛志 10 - 6
九州産業考古学会会報1～10号総索引市原猛志 10 - 11
【お知らせ】	
役員紹介(新役員について)...	1 - 4、5 - 11
今後の予定1 - 4、2 - 8、3 - 20、4 - 12、5 - 12、6 - 8、7 - 8、8 - 4、9 - 8、10 - 16
エンジンフェスティバル in 甘木 20042 - 7
年次総会開催のお知らせ2 - 8、4 - 10、6 - 6
会報原稿募集のお知らせ2 - 8、8 - 4
堀川開削200周年記念事業・堀川サミット20043 - 16

八女市政50周年記念事業・八女からの「環境・文化・教育・産業・平和」リレーシンポジウム3 - 17
「鮎川義介のルーツをさぐる」日産自動車・日立金属九州工場見学会3 - 18
原稿募集(附投稿規定)3 - 18
日本産業技術史学会総会志免にて開催...	4 - 8
TICCIH 中間大会並びに国際産業観光フォーラム in 名古屋のご案内4 - 9
「志免の文化財ウォーク」開催5 - 11
書籍・文献紹介6 - 6、8 - 3
第6回全国産業観光フォーラム in 北九州7 - 6
門司港まちづくりシンポジウム7 - 7
志免・文化財ウォーク7 - 7
門司赤煉瓦研究会講座7 - 7
2007年度産業考古学会全国大会北九州開催について8 - 3
『福岡の近代化遺産』まもなく刊行9 - 6
シンポジウム「肥薩線100年の歴史と産業遺産を語る」9 - 6
皆様の声を募集!9 - 6
「折尾駅の歴史的価値を考える会」による折尾駅舎保存署名活動について福山ミツエ 9 - 7

著者別索引

青地学3 - 15
旧国鉄本社ビル～今はなき「鉄道の総本山」～【企画】3 - 15
九州で産業考古学を学ぶ 事務局長就任挨拶【巻頭言】5 - 1
いぶき館～宝珠山の炭坑遺産～【報告】5 - 10
2006年度総会・見学会【報告】7 - 2
歴史的な鉄道施設の活用事例【研究発表】10 - 3
2008年度総会・見学会報告【報告】10 - 7
池森寛6 - 7
朝倉町の揚水水車について【研究発表】3 - 8
学生のための技術史講演会【報告】4 - 7
動態保存されている農用小型木炭ガス機関 小林式サクシオンガス機関 【研究発表】5 - 2
水車を未来に繋ぐ産業考古学を創った人・香月徳男先生逝く【追悼】6 - 7
市原猛志9 - 4
岡田医院の歴史と変遷【研究発表】4 - 2
日本産業技術史学会総会報告【報告】5 - 8
「鷗外の道」直方見学会【報告】7 - 4
志免竪坑櫓国有形文化財に登録【短信】9 - 4
長崎刑務所保存問題顛末記【短信】9 - 4
経済産業省による近代化産業遺産認定【短信】10 - 6
長崎刑務所一部保存へ【短信】10 - 6
「折尾駅と堀川運河を保存する会」報告【短信】10 - 6
『福岡の近代化遺産』出版を終えて【報告】10 - 8

九州産業考古学会会報 1 ~ 10号総索引	1 0 - 1 1	にあんちゃんの里【短信】	7 - 5
瓜生浩義 日炭高松二坑旧山神社の鳥居保存活動に思う【巻 頭言】	6 - 1	2007年度総会および見学会【報告】	9 - 5
大石道義 志免産業遺産講演会【報告】	1 - 3	宗像・上八金山の遺物“金控確”【研究発表】	1 0 - 2
志免竪坑櫓とまちづくりシンポジウム【報告】	2 - 6	竹中康二 門司赤煉瓦プレイス(旧サッポロビール九州工場) 国登録文化財へ【報告】	9 - 2
産業と「環境・文化・教育・平和」との連環 — 産業再考—【巻頭言】	3 - 1	長弘雄次 遠賀堀川とその再生保存について【研究発表】	2 - 2
尾崎徹也 産業考古学について考える【短信】	7 - 4	筑豊の近代化遺産について【巻頭言】	1 0 - 1
越智廣志 九州産業考古学会創立 15周年に寄せて【寄稿】	3 - 2	永吉守 NPO法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ活 動紹介【報告】	6 - 3
木元富夫 創刊に寄せて【巻頭言】	1 - 1	西村博道 2007長崎居留地まつり「居留地シンポジウム」 に参加して【報告】	9 - 3
九州産業考古学会の沿革【特集】	1 - 4	平島勇夫 全国近代化遺産活用連絡協議会大牟田総会【報告】	3 - 1 5
学会の発展に向けて【寄稿】	3 - 3	地域住民のための近代化遺産【巻頭言】	7 - 1
桑原三郎先生を偲ぶ【追悼】	4 - 1 1	深町純亮 筑豊ボタ山考【研究発表】	2 - 4
針尾送信所無線塔を実見して【短信】	8 - 2	再建成った嘉穂劇場【報告】	3 - 1 2
幸田亮一 熊本産業遺産研究会がスタート【報告】	1 - 3	旧伊藤邸、飯塚市が買上げ保存へ【報告】	6 - 4
熊本学園大学産業資料館オープンの経緯【報告】	3 - 1 4	旧伊藤伝右工門邸の現状と今後【巻頭言】	8 - 1
九州の伝承遺産シンポジウム 2005長崎【報告】	5 - 9	福山ミツエ 「折尾駅の歴史的価値を考える会」による折尾駅 舎保存署名活動について【お知らせ】	9 - 7
九州伝承遺産ネットワークの発足を祝して【報告】	6 - 3	松田寛 九州産業考古学会 2003年度総会【報告】	1 - 2
熊本産業遺産研究会の活動紹介【巻頭言】	9 - 1	産業考古学と景観工学【巻頭言】	2 - 1
後藤恵之輔 長崎産業遺産見学会【報告】	4 - 6	日産見学会 日産のルーツをたどる 【報告】	4 - 6
後藤恵之輔・中別府二郎・吉岡良平 熱赤外線映像装置を用いた近代化遺産の非破壊検 査手法の開発【研究発表】	3 - 4	2005年度総会および見学会【報告】	5 - 6
坂本道徳 九州伝承遺産ネットワーク協議会 その理念と方 向 【報告】	6 - 2	松田寛・山田元樹 年次総会・見学会及び決算報告【報告】	3 - 1 1
清水憲一 産業考古学への道【巻頭言】	4 - 1		
砂場一明 関門産業遺産見学会 下関要塞跡と関門に残る近 代化遺産 【報告】	2 - 6		
雁ノ巣飛行場跡の格納庫群【企画】	4 - 5		
折尾界隈の鉄道史を見る【報告】	5 - 7		
高蔵山堡壘探訪記【報告】	6 - 5		

会報第10号・目次

【巻頭言】	【報告】
筑豊の近代化遺産について	『福岡の近代化遺産』出版を終えて
.....長弘雄次 1市原猛志 7
【研究発表】	産業考古学会全国大会感想紹介
宗像・上八金山の遺物“金控碓” 8
.....砂場一明 2	2008年度総会および見学会
歴史的な鉄道施設の活用事例 青地学 10
..... 青地学 3	【企画】
【産業遺産短信】	九州産業考古学会会報1～10号総索引
・経済産業省による近代化産業遺産認定 11
・長崎刑務所一部保存へ	【お知らせ】
・「折尾駅と堀川運河を保存する会」報告	今後の予定
..... 6	16

(お知らせ内の各イベントは、頁末の当会ウェブサイトからもご確認ください)

今後の予定

月・日	活動内容
5月10～11日	産業考古学会年次総会(東京都・法政大学)
6月	
7月	
8月	『筑豊の近代化遺産』刊行
9月20日	機械学会「技術と社会」部門イベント(北九州市小倉北区)
9～10月	会報第11号発行

【予定は都合により変更する事があります】

<編集後記>

やっと10号なのか、もう10号なのか。節目を考える意味でこのとらえ方は非常に難しい。未来志向で考えるならば、「まだ10号」と考えるべきだろう。継続して情報を送り続けることで、産業考古学の浸透と発展を担っていければ、これ以上の幸いはない。今後の定期的な発行を維持するため、会員からの積極的な投稿を期待している。(市原)

会費納入・ご寄付のお願い

当会は事務局体制や会報を充実させるため、会則により年会費を個人会員2000円、団体会員は5000円徴収させて頂いています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程どうぞ宜しくお願いいたします。

会費納入・寄付先口座【郵便口座】

17430-88882241

キュウシュウサンギヨウコウコガツカイ

九州産業考古学会事務局 〒807-0022 福岡県遠賀郡水巻町頃末北4丁目11-7-204 青地学 気付

TEL&FAX: 093-202-5054 E-mail: aochimanabu@yahoo.co.jp

URL: <http://f17.aaa.livedoor.jp/~heritage/>